

令和3年度 延岡市立浦城小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

【学校経営ビジョン】 児童が夢や希望をもち、これからの社会をたくましく生き抜いていくために、少人数の特性や地域性を生かして、浦城小学校ならではの教育（一人一人に合わせたきめ細かな指導、見届けの指導、中学校や地域との連携）を計画的、継続的、組織的に展開することによって、確かな学力、思いやりの心、たくましさを身に付けた児童を育成する。（「浦城っ子七箇条の推進」）

【評価基準 4:期待を上回る 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する】

評価項目	重点指導項目	方策・手立て ⇒ 達成状況等 ※○数字はアンケート ※「児童」「保護者」は肯定的な回答(A・B)の割合	成果と課題	自己評価		改善策等	学校関係者評価委員	
				項目	総合		評価	意見
1 確かな学力の向上	1 主体的な学習態度及び活用する力の育成	(1) 児童が「分かった！できた！」と実感できる授業実践 ① 学校は進んで学力の向上のための取組を行っている。 ⑤ 子どもは、授業中しっかり学習に取り組んでいる。(参観日など) ⇒「児童」①については全員がA評価 ⑤は全員B以上 ⇒「保護者」①⑤ともに100%	(1) 学力テストの分析や研究授業の実践(2回)を行い、授業改善に取り組んでいる。一単位の時間の中で、自分の考えをまとめる時間、互いに考えを伝え合う時間、教師も3人目として参加しまとめる時間を設定し、主体的に学習に取り組む態度の育成に取り組んでいる。 学校生活全般において自分の考えや意見を相手に伝える場面を意図的に設定している。さらに、他校や大人数での活動も増やしていく必要がある。	3.7	3.6	○ 少人数の中でいかに学び合い的な活動を行っていくか、ICT活用、教師の関わり方等を工夫しながら実践していく。 ○ 他校児童や地域の方々等、多くの人との交流を行うことができる活動を意図的に設定する。 例: Google Classroomやロイロノートを活用して他校とオンラインで交流を図る。	3.4	○ 少人数の特性を生かした授業づくりに取り組んで学力向上に努めてもらいたい。 ○ ICTの活用や多くの学校や児童達との交流を深められるような教育活動に取り組んでほしい。 ○ さらに、個性を重視しやる気、協調性など、子どもの気持ちをくみながら指導して行ってほしい。
	2 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着	(2) 個に応じた指導の充実 ② 教職員は、一人一人の子どもに応じて分かりやすい授業を行っている。 ⇒「児童」全員がA評価 ⇒「保護者」100% (3) 反復練習及び陰山メソッドの取組	(2) 複式指導の解消や少人数の特性を生かした個に応じた指導の充実を図るためにICTの活用にも取り組んでいる。ICTとノード指導等との効果的な学習方法の検討が必要である。 (3) 朝の時間にがんばりタイムを設け、音読・100ます計算に毎日取り組み、基礎学力の向上に努めている。	3.8		○ 一人一人の学力面での強みや弱点をとらえ、それを生かしたり、補完したりできるように指導していく。 ○ 算数以外の教科でのICT活用を図っていく。Google Classroom等の積極的な活用を進める。	3.3	○ 個に応じた指導こそ、本校の強みであるので、それぞれの個性を大切にしながら学習を進めさせてもらいたい。
	3 読書活動の充実と豊かな表現力の育成	(4) 一斉読書、読み聞かせ、親子ふれあい読書等による読書活動の推進 (5) 積極的な作品応募の推進 ④ 子どもは、相手を考えて話すことや分かりやすく伝えることができるようになってきている。 ⑦ 子どもは、進んで読書をし、本に親しんでいる。 ⇒「児童」④は全員B以上だが、Aは少ない。 ⑦は全員B以上 ⇒「保護者」⑦は100%	(4) 延岡市立図書館の職員による読み聞かせやふくろう号を活用できた。朝の時間を活用した全員読書に取り組ませることができた。親子ふれあい読書については、具体的な方法などを知らせ、保護者と連携して取り組んでいく必要がある。 (5) 児童全員が作文を投稿し、新聞に掲載された。	3.4		○ 親子ふれあい読書に取り組んでいく。 ○ 新聞投稿を目ざした作文指導を継続し、さらに豊かな表現力の育成を図る。	3.0	○ 本を読むことの大切さに親子で気づき、親子読書の時間をもてるような取組を実践してもらいたい。

	4 効果的な家庭学習の習慣化	(6) 効果的な家庭学習の工夫 ③ 教職員は、学習内容を確実に定着させるために、家庭学習への手立てや働きかけをしている。 ⑥ 子どもは、家庭で学習する習慣が身に付いている。 ⇒「児童」③100% ⑥全員がB以上 ⇒「保護者」③は100% ⑥はAが75%	(6) 少人数の特性を生かし、家庭学習で取り組んだ内容について目を通し、必要があれば個別指導にも取り組んでいる。その日に学習した内容に合わせた課題に取り組むことができるように工夫もしている。効果的な家庭学習の習慣化については、学校保健委員会の取組(よりよい生活リズムの定着を目指して)とも関連付けながら指導している。	3.6		○ 一人一人に応じた効果的な家庭学習を行うことができるように指導を継続していく。	3.3	○ 家庭での学習習慣を身に付けさせることは大切なことである。
2 豊かな心の育成	1 自ら考え、実行する態度・判断力・実践力の育成	(1) 個々の児童のよさを引き出す指導の充実 ⑫ 子どもは、自分のことは自分でできている。 ⑬ 子どもは、最後までやり抜く力が付いている。 ⇒「児童」⑫⑬全員がB以上	(1) 少人数の特性を生かし、それぞれの児童に応じた声かけ・指導を具体的な場面で即座に実践することができる。	3.2	3.5	○ 学習・生活の様々な場面で自己決定が必要となるような言葉かけ等を意図的に行っていく。	3.3	○ さまざまな場面で自己決定を経験することは子どもにとって大きな力になる。
	2 家庭等との連携をとった基本的生活習慣の定着	(2) あいさつや返事、時と場を考えた言葉づかいの徹底 ⑪ 子どもは、笑顔で明るいあいさつや返事ができている。 ⇒「児童」⑪全員が100%	(2) 教師自ら明るいあいさつを心がけ、丁寧に声をかけている。目上の人への言葉づかいや反応の返し方等、くり返し指導している。	3.5		○ 上手な言葉づかいや接し方等に対して賞賛していく。	3.3	○ 言葉づかいやあいさつは大きな声ではっきりとできるようにしてほしい。
	3 自他を大切にしている心身の育成	(3) 様々な体験活動とおとした思いやりの心や人権意識の醸成 ⑧ 学校は、いじめや差別のない温かい人間関係づくりに努めている。 ⑩ 子どもは、楽しく学校に通っている。 ⇒「児童」⑧はAが100% ⑩は全員B以上 ⇒「保護者」⑩全員B以上	(3) 教育相談において、友達のよさを見つけることや助け合うことを意図したアンケートと指導を行うことができた。 (3) 新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行った上で、熊野江小学校の児童とともに観劇教室を実施した。生の演劇を鑑賞し、質の高い芸術に触れることができた。	3.6		○ 多くの児童と活動する中で、思いやりの心や人権意識を育むことができるように教育課程の工夫を行っていく。	3.4	○ 自分がされて嫌なことは人には絶対しないという思いやりの心を大切にしていってほしい。
	4 公共心や思いやりの心身の育成	(4) 相手の気持ちを考え、自分の言葉や態度で表現できるコミュニケーション能力の育成 ⑨ 学校は笑顔あふれる環境の整備に努めている。 ⑭ 子どもさんは、友達や周りの人への思いやりのある言葉かけや行動ができている。 ⇒「児童」⑭全員B以上 ⇒「保護者」⑨⑭全員B以上	(4) 毎月実施している心のアンケートをもとに全職員で分担して教育相談に取り組んでいる。気になる内容については、全職員で情報を共有し、積極的な生徒指導に取り組むとともに、公共心や思いやりの心についても指導してきた。	3.6		○ 毎月のアンケートと教育相談を欠かさず、継続して行い、公共心や思いやりの視点をもって接していくようにする。	3.3	○ 思いやりの心が育っている。

	1 たくましい体づくりの習慣化による基礎体力の向上	(1) 日常的な活動を通じた楽しい体づくりの工夫 (2) 新体力テストにおける個人到達目標の設定とそれを達成するための指導の工夫 ⑮ 学校は、健康でたくましい子どもを育てるために体力向上に努めている。 ⑲ 子どもさんは、外遊びなど、進んで運動している。 ⇒「児童」⑮は全員A ⑲は全員がB以上 ⇒「保護者」⑮⑲100%	(1) 季節に応じた運動を毎週金曜日の朝の時間(ぐんぐんタイム)に取り組むようにしている。昼休みは職員も入って全員でサッカーをしている。「よのなか教室」のサッカー講師によるコーチを受け、技術も向上している。水泳指導においては、港小・島野浦小の児童と交流学習を計画した。港小とはプール開きからプール納めまで一緒に学習することができ、競い合いながら自己記録を伸ばした。	3.7		○ 今後も「よのなか教室」やレクリエーション協会との連携を図り、体力向上に努める。 ○ 朝や昼休みの運動も継続し、体力向上に努める。 ○ 港小と合同での水泳学習を計画していく。	3.5	○ 昼休みに子どもたちと先生がサッカーをしているのをよく見かける。体力もつくり、思い出しにも残ると考える。
3 たくましさ と 安全意識 の 育成	2 安全で健康な生活を営む態度の育成	(3) 危険予知・危険回避能力、自己管理能力の育成 ⑰ 学校は、安全な登下校や危険から身を守る態度の育成に努めている。 ⑱ 子どもさんは、生活リズム(早寝 早起き 朝ご飯)が身に付いている。 ⇒「児童」⑰は全員A ⇒「保護者」⑰は全員A ⑱は全員がB以上	(3) 毎週水曜日は集団下校を実施しており、学期始めやサルなどが出没したときには、職員も見守り活動に取り組んでいる。 避難訓練を地震・津波、風水害、火災の3回実施した。実際に避難場所(延岡ゴルフクラブ)まで移動したり、保護者に迎えをお願いして引き渡したり、地域の消防団と連携した避難訓練を計画・実施できた。 学校保健委員会では、親子と一緒に生活リズムの大切さについて考えられるようなテーマを設定し、講演会を実施し、実践意欲を高めた。 毎月1回のすくすくタイムでは養護教諭が具体的に指導し、長期休業中には「生活リズムチェックカード」を活用して、個別指導を実施した。	3.4	3.6	○ 地域の消防団と連携した火災発生時の避難訓練は次年度も継続して行う。 ○ 基本的な生活習慣は家庭と連携を図りながら個に応じて行っていく。 ○ 早寝・早起きについては、長期休業中だけでなく、毎月「生活リズムチェック」を取り入れ、意識付けを図っていく。 ○ 南浦中学校のテスト期間に合わせて、「ノーメディアデー」を設定していく。	3.4	○ 地元消防団との連携は地域でのような団活動をしているか知るよい機会になり、火の怖さや避難の仕方にも身に付いていく。他の連携にも積極的に取り組んでもらいたい。
	3 食育の推進と望ましい食習慣の定着	(4) 家庭と連携した食育、地域のよさを生かした地産地消の推進 ⑯ 学校は給食指導や食に関する指導に努めている。 ⇒「児童」⑯全員B以上 ⇒「保護者」⑯100%	(4) 日々の給食指導の中で、食に対する関心を高めるようにしてきたことで、マナーも身に付き始めている。新型コロナウイルス感染症対策をしっかりととりながら、配膳等の当番活動にも取り組ませている。 夏野菜やサツマイモ、玉ねぎ等の栽培活動に取り組ませた。苗の定植や草取り、水やりなどの世話を教師も一緒に取り組むことで、勤労の大切さに気付かせることができた。収穫の際には、保護者・地域の方々とともに活動し、収穫の喜びを学んだ。	3.6		○ 食への感謝や食事のマナーについての指導を家庭や栄養士と連携しながら引き続き行っていく。 ○ 量の調整やタイマーを活用して食事時間を可視化するなどで時間を上手に使って食べることができるようにしていく。	3.3	○ 日々、何不自由なく食べられることへの感謝の気持ちを大切にしたい。

4 浦城っ子七箇条	浦城っ子七箇条の推進	(1) 時間を守って行動する。 ㉔ 子どもさんは時間を守って行動している ⇒「児童」「保護者」B以上が75%	(1) チャイム黙想を始め、時間を守って行動する態度がほぼ身に付いているが、個別指導が必要な場面もあるので継続して指導していく。	3.4	3.4	○ 南浦中学校校区の共通実践事項「チャイム黙想」を継続指導していく。	3.7	○ 時間を守ることの大切さをしっかり教えてもらいたい。
	(2) 気持ちのよいあいさつをする。 ㉕ 子どもさんは、気持ちの良いあいさつをしている。 ⇒「児童」B以上が100%	(2) 全校朝会を始め、あいさつの大切さについては繰り返し指導してきたことで、全員のあいさつが改善されてきている。	3.6	○ あいさつは人と人の関係の基本であることを教えながら、大きな声で明るくあいさつできるように指導していく。		3.7	○ あいさつも自分から進んでできるようにしてもらいたい。	
	(3) 返事をきちんとする。 ㉖ 子どもさんは、返事をきちんとしている。 ⇒「児童」「保護者」B以上が100%	(3) 返事は「はいっ。」とはきはきしようと授業中はもちろん、学校生活全般を通して指導してきた。少しずつ改善はされているが、引き続き指導していく。	3.3	○ いつでもどこでも誰にでもきはきとした「はいっ。」と返事できるように継続指導していく。		3.6	○ 文書等を届けてくれたときのあいさつや対応がよくて気持ちが良い。	
	(4) 「分かる できる」までがんばる ㉗ 子どもさんは、「分かる できる」まで頑張っている。 ⇒「児童」全員がA	(4) 授業中はもちろん、持久走や縄跳びの練習等、自分の目標を立ててこつこつと努力し、あきらめないで頑張ろうとする姿がよく見られた。	3.6	○ 努力の成果が目に見えるような学習カード等を準備し、賞賛していく。		3.9	○ 何事もあきらめないことの大切さをしっかり指導してもらいたい。	
	(5) 自分の考えをはっきり言う。 ㉘ 子どもさんは、自分の考えをはっきり言っている。 ⇒「児童」全員がB以上 ⇒「保護者」Aが75%	(5) 授業の中では、自分の考えを最後まできちんと発表できるようになってきた。学校生活の中では、少人数だからこそ、もめごとやトラブルを避けようとする傾向があった。自分の考えをはっきり伝えなければならない場面では、互いに伝えるように指導したことで、互いの理解を深めさせることができた。	3.1	○ 自分の考えをしっかりと伝えることの大切さについて少人数であるため、気付きにくいので、そこを含めた指導を行っていきたい。		3.4	○ 発表の場を意図的に設け、人前で話せるようにしてもらいたい。	
	(6) 自分も相手も大事にする。 ㉙ 子どもさんは、自分も相手も大切にしている。 ⇒「児童」「保護者」全員がB以上	(6) 毎月実施している心のアンケートには、「頑張っている友達はいいますか。」の項目を入れたり、帰りの会では「本日のきらり」で友達のよさに目を向けるようにしたりしたことで、互いのよさを認める態度を育てることができた。	3.5	○ 友達のよさに気付いていけるようにアンケートの質問事項や帰りの会の内容等を工夫していく。		3.4	○ 友達を大事にすることが自分も大事にしてもらうことにつながっていくので仲良くしてもらいたい。	
	(7) 体をきたえる。 ㉚ 子どもさんは、自ら体をきたえている。 ⇒「児童」「保護者」全員がB以上	(7) 朝の活動のぐんぐんタイムや体育の時間、昼休み等を使って、新体力テストにおける個人到達目標を達成できるような運動やサーキットトレーニングの紹介・実践、持久走や縄跳びカードを準備してきた。一人一人が自分の目標に向かって鍛え、体力向上に取り組む態度を育成できた。	3.6	○ 極少数人数でも楽しく継続した体力づくりができる運動について調べ、工夫して取り組ませていきたい。 ○ 「よのなか教室」を積極的に活用して、運動のレベルアップを図っていく。		3.4	○ 健康で学校、家庭でのよい生活習慣を続けてもらいたい。	

5 学校運営全般と保護者・地域との連携	1 学校運営	<p>(1) 計画的な学校行事の実施</p> <p>(2) 参観日の運営</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症対策</p> <p>⑩ 学校行事は、時期・内容等が適切であり、計画的に実施されている。</p> <p>⑪ 参観日は、時期・内容・回数は適切である。</p> <p>⑫⑬ 学校は、新型コロナウイルス感染予防に適切に対応している。</p> <p>⇒「児童」⑫は全員がA</p> <p>⇒「保護者」⑬全員がB以上</p> <p>⑭⑮ 全員がA</p>	<p>(1) 学校行事については、新型コロナウイルス感染症に対する対策を講じた上で実施してきた。運動会については、地域とも連携を図り、入場の際には検温、マスク着用、入場者の氏名、連絡先、体温の記入の協力をお願いした。</p> <p>(2) 参観日は計画していた内容を実施できるようにしてきた。2月の参観日は児童の安全を優先し、内容の短縮、ソーシャルディスタンスを確保した会場の設営等の工夫をして実施した。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症対策については、社会状況に合わせた対応ができるよう、その都度全職員で協議し、児童に分かりやすく伝えながら全職員で共通実践できた。</p>	3.9	○ 少人数であってももしっかりとしたコロナ対策を講じながら行事運営に努めていく。その際、保護者、地域と連携を図り、協力もお願いしながら行っていく。	3.8	○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、さまざまな制約がある中、学校運営方針が明確に示されていて分かりやすいのがよい。
	2 子どもの可能性を信じて使命感に徹し、信頼される教師	<p>(1) 子どもの可能性を信じ一人一人を大切にす教師</p> <p>(2) 教師としての使命感に徹し、信頼される教師</p> <p>(3) 働き方を考え心身ともに健康で明るい教師</p> <p>⑯⑰ 職員は、子どもに公平に接し、優しさ、愛情、厳しさをもって指導している。</p> <p>⑱⑲ 職員は、保護者からの相談に誠実に対応している。</p> <p>⑳ 職員は、来校者や電話に対して丁寧な気持ちよく対応している。</p> <p>⇒「児童」⑯⑰ともに全員がA</p> <p>⇒「保護者」⑱⑲全員がB以上</p>	<p>(1) 児童一人一人のよさや特性を把握すると、全職員で情報を共有し、それぞれの指導に生かすようにしてきた。</p> <p>(2) 風通しの良い職員室をめざし、少ない職員でもお互いに声を掛け合いながら協力して職務に取り組んできた。保護者からの連絡や相談については、丁寧に対応してきている。</p> <p>(3) ワークライフバランスを考えながら、子どもたちのためになることは、前向きに取り組んできた。</p>	3.8.	○ これまでも職員一人一人がよく努力しながら職務を行ってきていると感じている。自己満足することなく、他の意見もしっかりと聞きながら改善し、日々の教育に生かしていきたい。そのためにも地域の方や保護者との対話を重視していきたい。	3.5	○ 先生方の地域とのつながりを大変重要視しているがゆえに地域からも子どもたちからも信頼されている。
	3 保護者・地域に信頼される開かれた学校づくり	<p>(1) 家庭・地域へのきめ細かな対応、情報発信</p> <p>(2) 南浦地区各小中学校との連携</p> <p>㉑ 学校は、教育目標や教育方針、学校の課題、必要な情報等をPTA総会や学級懇談会、学校だより等を通して、分かりやすく伝えている。</p> <p>㉒ 学校と地域の連携が、よくなされている。</p> <p>㉓ 小学校と中学校の連携がよくなされている。</p> <p>⇒「保護者」㉑全員がB以上</p>	<p>(1) 月1回の学校便りの発行やホームページを活用した子どもたちの活動の様子の紹介、週末の学級での学習や活動の様子を紹介した学級通信とタイミング良く情報を発信できた。</p> <p>(2) 熊野江小学校との集合学習や遠足、南浦中学校校区での学習に関する共通実践事項への取組等、計画した内容についてはほぼ実施できた。地域との連携については、学校評議員の方々の協力も得ながら進めることができた。</p>	3.6	○ (1)については、今後も充実させていきたい。 ○ 開かれた学校づくりのためにも、待つのではなく学校側から保護者、地域へ積極的に働きかける姿勢で活動していきたい。 ○ 集合学習の内容等について教務主任を中心に相談を進め充実させていきたい。	3.7	○ 地域へのさらなる情報発信と地域と共に活動できるようにしていただいたい。

